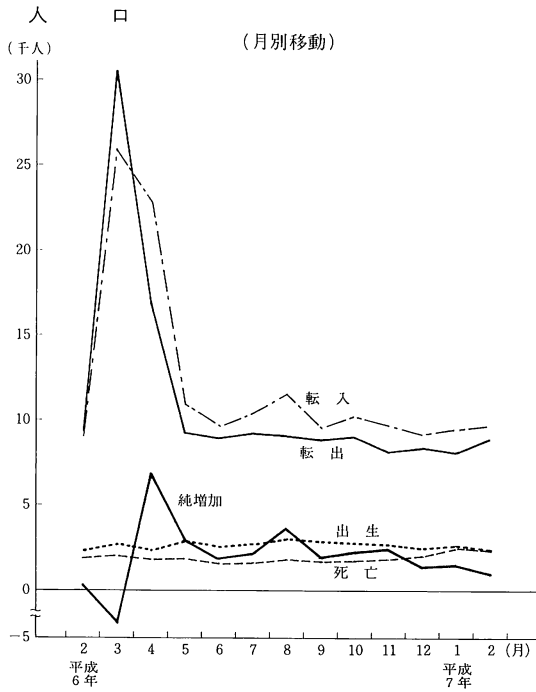
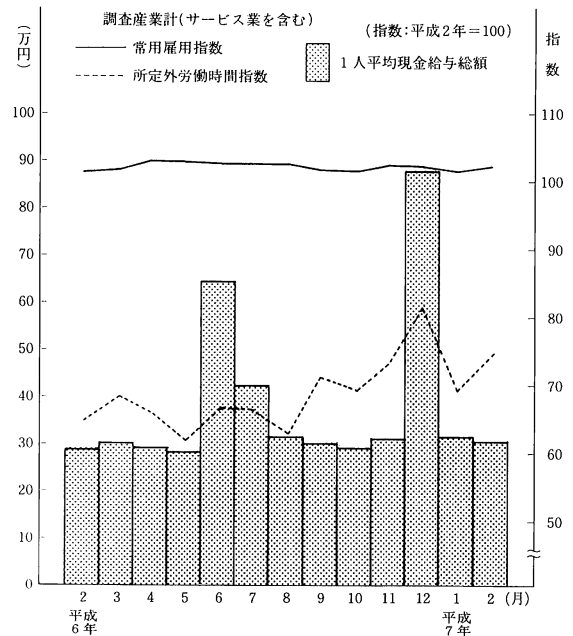


●今月の主な動き

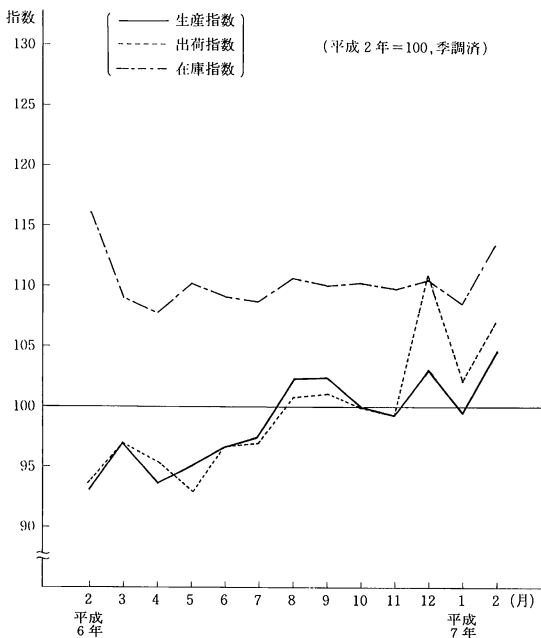
今月の主な動き



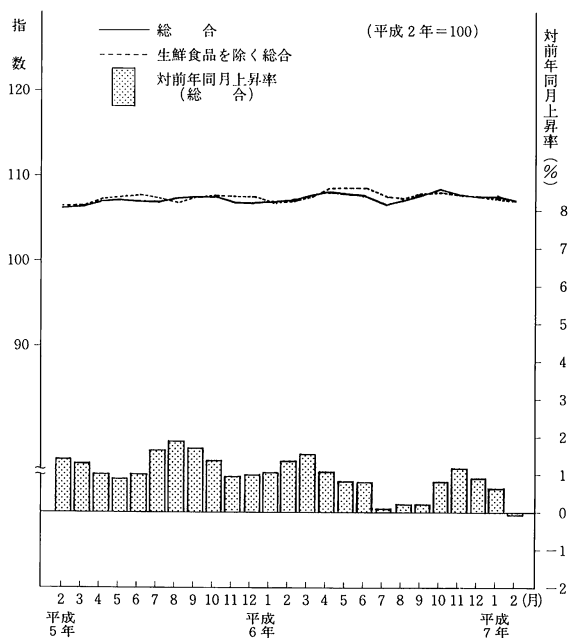
賃金・労働時間・雇用



鉱工業指数(生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし……………企画部統計課

■人口(3月1日)

本県の人口は、2月中に830人増加し、3月1日現在で、2,956,746人(男1,478,223人、女1,478,523人)となった。

内訳は、自然動態で91人(出生2,210人、死亡2,119人)増加し、社会動態で739人(転入9,623人、転出8,884人)増加した。前年同月と比べると22,210人(0.76%)の増加である。

ある。

市町村別では、増加が12市35町村、減少が7市31町村、増減なしが1町村である。

世帯数についても2月中に、627世帯増加し917,678世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用(2月)

1. 平均賃金の推移

2月の現金給与総額は、調査産業計で302,746円、対前年同月比3.5%増、このうち、きまって支給する給与は299,877円、対前年同月比4.0%増であった。また、このうち、所定内給与は272,152円、対前年同月比3.0%増であり、超過労働給与は27,725円、対前年同月比14.2%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比4.1%増であった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

2. 労働時間

2月の総実労働時間は、調査産業計で160.4時間、対前年同月比1.5%増であった。このうち、所定内労働時間は145.9時間、対前年同月比0.5%増、所定外労働時間は14.5時間、対前年同月比14.0%増であった。

3. 雇用の動き

2月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比0.3%減であった。

■鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(2月)

本県における平成7年2月の“鉱工業指数”(平成2年=100)は、季節調整済指数で、生産が104.5、出荷が106.9、在庫が113.3で、前月比は、生産が5.1%の上昇、出荷が4.8%の上昇、在庫が4.5%の上昇であった。

前年同月比(原指数)は、生産が12.2%の上昇、出荷が14.3%の上昇、在庫が2.2%の低下であった。

業種別に前月比をみると、生産では、一般機械工業、鉱業、電気機械工業等が上昇し、精密機械工業、その他工業、パルプ・紙・紙加工品工業等が低下した。出荷では、一般機械

工業、鉱業、電気機械工業等が上昇し、精密機械工業、窯業・土石製品工業、非鉄金属工業等が低下した。在庫では、石油・石炭製品工業、食料品・たばこ工業、繊維工業等が上昇し、精密機械工業、その他工業、電気機械工業等が低下した。

特殊分類別にみると、生産では、資本財、非耐久消費財が上昇し、鉱工業用生産財が低下した。出荷では、資本財、非耐久消費財等が上昇し、その他用生産財、鉱工業用生産財等が低下した。在庫では、その他用生産財、非耐久消費財等が上昇し、耐久消費財、資本財が低下した。

■消費者物価指数(2月)

平成7年2月の茨城県消費者物価指数(県平均)は、総合で106.9(平成2年=100)となり、前月比0.5%の下落、前年同月比0.1%の下落となった。

今月の上がった主な項目……通信4.7%、乳卵類1.6%、

保健医療用品・器具1.1%、身の回り用品1.1%

今月の下がった主な項目……衣料4.9%、果物4.3%、野菜・海草3.5%、魚介類3.1%

生鮮食品を除く総合は106.8となり、前月比0.2%の下落、前年同月比ともちあいであった。

費目別指数

(平成2年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	106.9	△0.5	△0.1	保健医療	102.6	△0.1	0.3
食料	107.4	△0.9	△1.2	交通通信	99.5	0.5	△0.1
住居	116.1	0.4	2.1	教 育	114.0	0.0	3.5
光熱・水道	102.5	0.1	0.6	教養娯楽	110.0	△0.1	0.7
家具・家事用品	97.4	△0.6	△2.5	諸 雑 費	105.0	0.2	1.3
被服及び履物	103.4	△2.9	△2.7	生鮮食品を除く総合	106.8	△0.2	0.0